

シンポジウム

2016 年 6 月 25 日

昨今、アベノミクスが喧伝され、株高や企業業績の向上などが生じた一方、経済を中心としたさまざまな格差や日々のくらしで直面する課題は深刻さを増すばかりです。少子化と高齢化、雇用の非正規化、所得の低下、将来への不安の増大など、わたしたちが安心してらせる社会への道のりは大変遠く感じられます。そんな折、政策課題として「地域創生」が浮上しましたが、その視点は経済の拡大に焦点をあてたものであり、本来の地域が持つ多面的な役割の多くは捨象されています。しかし、いま求められているのは「くらしの側から」地域の実態や課題を見つめ、それを解決していく取り組みです。

こうした状況を踏まえて、第24回総会記念シンポジウムでは、「地域再生と協同～協同組合に何を期待するか」というテーマのもと、現代社会における地域の中での協同組合の役割を検討することとしました。シンポジウムでは、記念講演を哲学者の内山節氏にお願いしました。東京と群馬県上野村で二重生活を送られる内村氏には、現在の地域のおかれた状況やその中で奮闘する人々の実践を、とても広い視点からお話しいただきました。パネルディスカッションでは3名のパネラーを迎え、地域の再生とそこで協同組合にできることは何かについて、それぞれの立場からご報告いただきました。京都大学大学院教授である岡田知弘氏は経済政策と地域のかかわりの問題を、滋賀県立大学名誉教授の小池恒男氏は TPP をはじめとしたグローバル化と地域の問題を、そして就実大学講師の加賀美太記氏からは人に注目した地域の問題をご報告いただきました。

地域という言葉が持つ意味は広く多岐にわたりますが、その多くの場合で深刻な問題を抱えています。今回のシンポジウムで協同組合をどのように活かしていくべきかという問いに対する示唆は得られたように思います。それぞれが得たヒントを現場に持ち帰り、次に活かしていくことを期待します。

(本誌編集委員 加賀美太記)



記念講演



パネルディスカッション